

Title	合併号発行にあたって
Author(s)	百瀬, 英毅
Citation	大阪大学低温センターだより. 2016, 164-165
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57832
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

はしがき

合併号発行にあたって

百瀬英毅*

今回の『低温センターだより』は諸般の事情により2回分の合併号として発行させて頂くことにさせて頂きました。

諸般の事情とは、吹田分室の教員ポストが1年近く空席となって低温センター自体のマンパワーが大きく低下していること、豊中分室の実に13年ぶりとなるヘリウム液化装置更新という一大事業に重なっていること、などの要因によるものです。

このような状況の中、冊子の発行当番となっていた吹田分室の前任者である小生が発行作業を担当させて頂きました。しなしながら、作業はズルズルと遅れてしまい、この時期までズレ込んでしまいました。このため、冒頭で申し上げましたように7月分と1月分を合わせた形で発行させて頂くことになりました。

本誌を楽しみにしておられる読者の皆様には大変ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。諸般の事情をご理解頂きまして、何とぞご容赦頂けたらと存じます。

また、原稿をご執筆頂きました著者の皆様には夏頃を前提に記事をご執筆頂いた方もおられますが、大幅な遅延により季節感が全く異なってしまいました。重ねてお詫び申し上げます。

さて、この冊子が皆さまのお手元に届く頃には、春のたよりが徐々に届き始めている時期かと思えます。低温センターにおいても、吹田分室では新しい教員が着任して業務を本格化し始め、豊中分室ではヘリウム液化装置の更新作業が最終盤に入った頃だと思えます。センターが次に踏み出す基盤が固まってきた時期となっているはずです。センター教職員の平均年齢も少し下がり、パワーアップする低温センターにご期待頂ければと存じます。

ところで、この原稿を書いている時に、京都大学の低温物質科学研究センターが発展的解消するとの一報が飛び込んできました。大学本部に設置される機構に取り込まれて機能強化が図られるとのこと。寒剤供給を通じて大学の教育研究を支援する組織にとっては今までに無い厳しい時代となりました。引き続き、皆さまからの温かく力強いご支援を大阪大学低温センターに賜ればと存じます。

*平成27(2015)年4月に低温センターから安全衛生管理部へ異動。